

令和7年度一般選抜(前期日程)・特別選抜(社会人・帰国生徒・外国人留学生)「数学」解答例

第1問

(1) 出る目の最小値が3以上ということは、 n 回のすべてで3,4,5,6のいずれかの目が出ればよいということなので、求める確率は $\left(\frac{4}{6}\right)^n = \left(\frac{2}{3}\right)^n$

(2) n 回のすべてで1,2,3,4のいずれかが出る事象を A , n 回のうち少なくとも1回は4が出る事象を B とすると、求めたい確率は、 $P(A \cap B) = P(A) - P(A \cap \bar{B})$ である。 $A \cap \bar{B}$ は n 回のすべてで1,2,3のいずれかが出る事象であるため、 $P(A)$, $P(A \cap \bar{B})$ はそれぞれ、

$$P(A) = \left(\frac{4}{6}\right)^n = \left(\frac{2}{3}\right)^n, \quad P(A \cap \bar{B}) = \left(\frac{3}{6}\right)^n = \left(\frac{1}{2}\right)^n$$

となる。よって、確率 p_n は以下のとおりである。

$$p_n = P(A \cap B) = \left(\frac{2}{3}\right)^n - \left(\frac{1}{2}\right)^n$$

次に、 $\sum_{k=1}^{\infty} p_{k+1}$ は $\sum_{k=1}^{\infty} \left\{ \left(\frac{2}{3}\right)^{k+1} - \left(\frac{1}{2}\right)^{k+1} \right\}$ を求めればよい。

ここで、 $\sum_{k=1}^{\infty} \left(\frac{2}{3}\right)^{k+1}$ は初項 $\left(\frac{2}{3}\right)^2$ 、公比 $\frac{2}{3}$ 、 $\sum_{k=1}^{\infty} \left(\frac{1}{2}\right)^{k+1}$ は初項 $\left(\frac{1}{2}\right)^2$ 、公比 $\frac{1}{2}$ の無限等比級数である。

公比について、 $\left|\frac{2}{3}\right| < 1$ 、 $\left|\frac{1}{2}\right| < 1$ であるから、この2つの無限等比級数はともに収束し、それぞれの和は、

$$\sum_{k=1}^{\infty} \left(\frac{2}{3}\right)^{k+1} = \frac{\left(\frac{2}{3}\right)^2}{1 - \frac{2}{3}} = \frac{4}{3}, \quad \sum_{k=1}^{\infty} \left(\frac{1}{2}\right)^{k+1} = \frac{\left(\frac{1}{2}\right)^2}{1 - \frac{1}{2}} = \frac{1}{2}$$

となる。よって、

$$\sum_{k=1}^{\infty} p_{k+1} = \frac{4}{3} - \frac{1}{2} = \frac{5}{6}$$

(3) $Q = (x_1 - 2)^2(x_2 - 2)^2 \cdots (x_n - 2)^2$ とおく。

各項 $(x_i - 2)^2$ の取る値は0, 1, 4, 9, 16のいずれかであるため、 $Q = 36$ が成り立つのは、 $(x_i - 2)^2$ が4と9の値を1回ずつ、その他は1の値を取る場合である。ここで、 $(x_i - 2)^2 = 4$ となるのは $x_i = 4$ のとき、 $(x_i - 2)^2 = 9$ となるのは $x_i = 5$ のときである。そして、 $(x_i - 2)^2 = 1$ となるのは $x_i = 1, 3$ のときである。従って、 $Q = 36$ が成り立つのは、4と5のさいころの目が1回ずつ出て、残りは1または3の目が出る場合である。

n 回のうち、4と5が1回ずつ出る確率は、 ${}_n C_1 \times \frac{1}{6} \times {}_{n-1} C_1 \times \frac{1}{6}$ であり、残りの $n-2$ 回のすべてで1または3の目が出る確率は、 $\left(\frac{2}{6}\right)^{n-2}$ である。よって、 $Q = 36$ となる確率は、

$${}_n C_1 \times \frac{1}{6} \times {}_{n-1} C_1 \times \frac{1}{6} \times \left(\frac{2}{6}\right)^{n-2} = \frac{n(n-1)}{4 \cdot 3^n}$$

第2問

- (1) 準線 $y = -p$, 焦点 $(0, p)$ の放物線の方程式の標準形は $x^2 = 4py$ であり, $p = -\frac{a^2}{8}$ においては $x^2 = -\frac{a^2}{2}y$ である。放物線 C はこれを x 軸方向に a だけ平行移動したものであるので x を $x - a$ に置き換えると, $(x - a)^2 = -\frac{a^2}{2}y$ と書いて, これを整理すると $-\frac{2}{a^2}(x - a)^2 = y$ となる。以上より, 放物線 C の方程式は

$$y = -\frac{2}{a^2}(x - a)^2 \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

である。

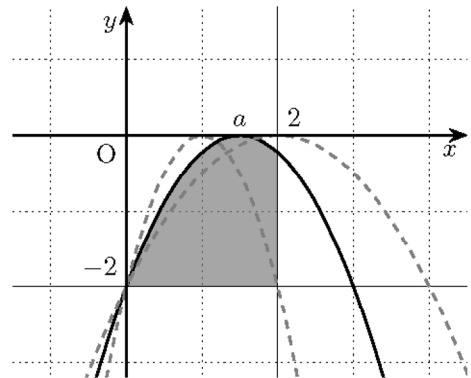
- (2) 求める接線の式を $y = Ax + B$ とすると, 接線の傾き A は式①を x で微分して, $A = -\frac{4x}{a^2} + \frac{4}{a}$ であり, 接点の x 座標が $x = \frac{a}{2}$ なので, $A = \frac{2}{a}$ となる。

放物線 C と接線の共有点は式①に $x = \frac{a}{2}$ を代入して, $(\frac{a}{2}, -\frac{1}{2})$ と求まる。これを接線の方程式に代入してまとめると, 接線の切片は $B = -\frac{3}{2}$ となる。

以上より, 接線の方程式は, $y = \frac{2}{a}x - \frac{3}{2}$ となるが, この直線が点 $(2, 2)$ を通るので, これを代入して a について解くと, $a = \frac{8}{7}$ となる。

- (3) 放物線 C の方程式①から, その頂点は $(a, 0)$ にあり, 上に凸である。

式①に $y = -2$ を代入して x について解くと, 放物線 C は $x = 0$ および $x = 2a$ で直線 $y = -2$ と交点を持つ。 $x = 0$ のときは, a によらず $(0, -2)$ が交点となる。 $x = 2a$ のときは, $1 \leq a \leq 2$ なので, $2 \leq x \leq 4$ であり, $x \leq 2$ における直線 $y = -2$ との交点は $(2, -2)$ のみである。式①に $x = 2$ を代入すれば, $y = -\frac{2}{a^2}(2 - a)^2$ である。 $1 \leq a \leq 2$ なので, $-2 \leq y \leq 0$ となり, この範囲で放物線 C は直線 $x = 2$ と交点を持つ。これは $(2, -2)$ も含む。



以上より, 連立不等式の表す領域の面積 S は, 積分範囲を $0 \leq x \leq 2$ としてよいから, 次式のように表すことができる。

$$S = \int_0^2 \left(-\frac{2}{a^2}(x - a)^2 - (-2) \right) dx = \left[-\frac{2}{3a^2}x^3 + \frac{2}{a}x^2 \right]_0^2 = -\frac{16}{3a^2} + \frac{8}{a}$$

S を a で微分して,

$$S' = \frac{32}{3a^3} - \frac{8}{a^2} = -\frac{8}{a^3} \left(a - \frac{4}{3} \right)$$

となるので, 次の増減表から $1 \leq a \leq 2$ においては, $a = \frac{4}{3}$ のときに S が最大値 3 となる。

| | | | | | |
|------|---------------|-------|---------------|-------|---------------|
| a | 1 | | $\frac{4}{3}$ | | 2 |
| S' | | + | 0 | - | |
| S | $\frac{8}{3}$ | ↗ | 3 | ↘ | $\frac{8}{3}$ |

第3問

(1) L の定義より D は線分 EL の中点となる。よって、

$$\overline{OD} = \frac{\overline{OE} + \overline{OL}}{2}$$

となり、したがって

$$\overline{OL} = 2\overline{OD} - \overline{OE} = \overline{OA} + 2\overline{OB} + \overline{OC}$$

である。M は線分 OB の中点であることから、

$$\overline{CM} = \overline{OM} - \overline{OC} = \frac{1}{2}\overline{OB} - \overline{OC}$$

である。また N の定義より、B は FN の中点となる。よって、

$$\overline{OB} = \frac{\overline{OF} + \overline{ON}}{2}$$

となり、したがって、

$$\overline{ON} = 2\overline{OB} - \overline{OF} = -\overline{OA} + \overline{OB}$$

である。よって、

$$\overline{CN} = \overline{ON} - \overline{OC} = \underline{-\overline{OA} + \overline{OB} - \overline{OC}}$$

となる。

(2) 条件より、 $\overline{OL} \cdot \overline{CM} = 0$ となる。よって、(1) より

$$(\overline{OA} + 2\overline{OB} + \overline{OC}) \cdot \left(\frac{1}{2}\overline{OB} - \overline{OC}\right) = 0$$

となる。 $\overline{OA} \cdot \overline{OB} = 0$, $\overline{OA} \cdot \overline{OC} = 0$, $\overline{OB} \cdot \overline{OC} = 0$ より、

$$|\overline{OB}|^2 - |\overline{OC}|^2 = 0$$

すなわち $|\overline{OB}| = |\overline{OC}|$ である。

また、条件より、 $\overline{OL} \cdot \overline{CN} = 0$ となることから、

$$(\overline{OA} + 2\overline{OB} + \overline{OC}) \cdot (-\overline{OA} + \overline{OB} - \overline{OC}) = 0$$

となる。よって、

$$|\overline{OA}|^2 - 2|\overline{OB}|^2 + |\overline{OC}|^2 = 0$$

となり、 $|\overline{OB}| = |\overline{OC}|$ であることから、

$$|\overline{OA}|^2 - |\overline{OB}|^2 = 0$$

すなわち $|\overline{OA}| = |\overline{OB}|$ となる。

以上より

$$|\overline{OA}| = |\overline{OB}| = |\overline{OC}|$$

となり、線分 OA, OB, OC を辺にもつ直方体は立方体である。

(3) 線分 OA, OB, OC を辺にもつ直方体は立方体であることから、各面の対角線の長さは等しい。すなわち $|\overline{OE}| = |\overline{OF}| = |\overline{EF}|$ となり、 $\triangle OEF$ は正三角形である。ここで $|\overline{OE}| = |\overline{OF}| = \sqrt{2}|\overline{OA}|$ であることから、求める面積は

$$S = \frac{1}{2}|\overline{OE}||\overline{OF}| \sin \frac{\pi}{3} = \frac{\sqrt{3}}{2}|\overline{OA}|^2$$

となる。

$$|\overline{OA}|^2 = \cos^2 t \cos^2 2t + \sin^2 t + \cos^2 t \sin^2 2t = 1$$

であることから、

$$S = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

である。